

報告書



丸投げにしない水泳授業
民間と連携した水泳授業の
質を高めるポイントが
ここに 있습니다



Instagram



Web

092-611-0220

<http://www.taiikukenyusho.ed.jp/index.html>

taiikukenyusho@pref.fukuoka.lg.jp

／ 単元計画の例 ／

小学校低学年

単元を貫く問い・テーマ
「水につかって歩いたり走ったり、水にもぐったり
浮いたりする楽しさに触れることができるようにする」



小学校中学年

単元を貫く問い・テーマ
「水に浮いて進んだり呼吸したり、様々な方法で水にもぐったり
浮いたりする楽しさや喜びに触れることができるようにする」



小学校高学年

単元を貫く問い・テーマ
「続けて長く泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、
記録を達成したりする楽しさや喜びを味わうことができるようにする」



中学生

単元を貫く問い・テーマ
「基本的な泳法を身につけ、
バランスよく泳げるようにする」



令和7年度

調査研究事業

民間と連携した水泳授業の在り方

本調査研究事業は、民間と連携した水泳授業の現状と効果、課題を整理し、学校現場にとって実行可能かつ持続可能な授業モデルの方向性を探ることを目的としました。本調査研究が今後の水泳授業の改善・再構築の一助となることを期待します。

調査研究の結果

児童生徒アンケート

水泳の授業
が楽しい

89%

進んで授業に
参加している

90%

教員アンケート

指導体制に
満足している

95%

負担が軽減
されている

95%

授業の満足度がとても高い結果に

連携した授業の実際

共通点

1. 泳力別グループ編成 2. 体系的な指導 3. きめ細やかな直接指導

授業の例

小学校5年生 児童数70名 インストラクター4名 教員3名 (水中1名)

上級者コース：児童15名 インストラクター1名 教員1名 (プールサイド)

学習内容：簡単なクロールが中心。ビート板を活用して手の動きやばた足で進む練習を行う。
インストラクター：手の動きの補助をする。また、一人一人にアドバイスを行う。
教員：プールサイドから児童の様子を俯瞰して観察する。上手に泳げた児童へ称賛の声掛けをする。

中級者コース：児童20名 インストラクター1名 教員1名 (水中)

学習内容：ビート板を使って進む学習。け伸びの姿勢とばた足中心で進む練習を行う。
インストラクター：スタートから最初の5Mあたりで声掛けをする。姿勢について補助をする。
教員：インストラクターの指導の後の10M先あたりで声掛けをする。インストラクターと同じ視点で声掛けや補助を行う。上手に行えた児童へ称賛する。

初級者コース：児童35名 インストラクター2名 ※2グループに分けて指導 教員1名 (プールサイド)

学習内容：水慣れが中心。遊びの要素を入れながらばた足の練習を行う。
インストラクター：体の動かし方、目線、呼吸の仕方などを一人一人に声掛けをしながら指導する。特に水が苦手な児童に対して、常に近くで補助を行うようにする。
教員：特に水が苦手な児童が安心できるように、声掛けを行う。

授業の質を高めるポイント①事前の打ち合わせ



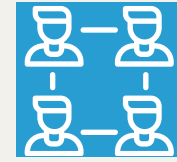
単元の目標・授業のねらいの共有

当該水泳授業のねらいや単元の目標について、教員とスイミング、各自治体の間で共通理解を図ることが重要です。その際、プールに入る回数や一回に泳ぐ時間などを考慮する必要があります。



児童生徒の実態に関する情報共有

子どもの実態は地域や学校、学年によって様々です。児童生徒一人一人の実態について、可能な範囲で事前に情報共有を行いましょう。これは、安全管理の面からも極めて重要です。



役割分担と指導体制の確認

スイミングのインストラクターに学習のすべてを丸投げするわけにはいきません。インストラクターにお願いすることと教師が指導することを明確にしたうえで、プールでの役割分担を共有しましょう。



学習の流れ・指導内容の確認

授業全体の流れや、1回のプールでの指導内容について事前に確認しておくことも重要です。特に、「導入・準備運動の進め方」、「泳力別指導の方法」などを共有しましょう。



安全管理とリスク対応に関する確認

水泳授業において安全管理は大変重要です。事前打ち合わせでは、「危険が想定される場面」、「注意すべき行動やルール」などについて具体的に確認・共有しましょう。

指導方針や単元計画、児童生徒の実態に関する情報共有などを制度的に位置付けましょう

授業の質を高めるポイント②教師による指導場面

プール内での指導・関わり

プールサイドでの指導

授業全体を俯瞰し、学習環境を支える役割を担います。インストラクターが水中で個別指導を行う中、教員は全体の安全確保や集団把握を中心に児童生徒へ指導や支援をしましょう。

入水して指導

入水する教員は、インストラクターとの役割分担を明確にし、児童生徒の学習を直接指導に当たったり支援をしたりしましょう。

見守りや待機にとどまるような「補助的存在」ではなく、「教育的主体」として位置付けましょう

プール外での指導・関わり

事前の指導

授業前には水泳学習のねらいや安全に関する留意点を丁寧に説明し、児童生徒が見通しをもって授業に臨めるようにしましょう。

授業後の指導

授業後には、振り返りの時間を設け、自身の取組や成長、安全意識について言語化する機会を確保するようにしましょう。

プール外での指導を水泳授業の付随的な活動ではなく、学習の一部として明確に位置付けましょう